

発 刊 に さ い し て

線材分科会は鉄鋼協会研究部門の鋼材部会の一科会として昭和24年2月28日に発足して爾来12年間に亘り関係各社の熱心な努力によりまして、急速な進歩向上の成果を遂げてまいりました。

当分科会は先に昭和29年3月に「鉄鋼技術共同研究会報告書」の「鋼材部会報告第5篇線材圧延」として報告書を編集されましたが、昭和29年以前はいわゆる復興期及び発展への準備期の技術研究報告と考えられ、それ以降につきましては、前期を基盤として発展し急速な改善進歩の成果を遂げてまいりました。これは他の技術部門の進歩向上と、これにたづさわる人々の並々ならぬ努力研究の結晶であります。

現在を概観すれば、すでに全連続式圧延設備が続々と建設せられ、昔日の形骸を止めない状況で生産性の飛躍的な向上と併せ、品質においてもまた向上を見、特殊鋼線材専門といつてもよい工場も建設せられている現況でありまして、旧設備の仕上速度は精々10m/s以下でありましたが、これらの新鋭設備におきましてはすでに20m/sを超え30m/sの設備が完成されつつある状況であります。

本報告書は31年以降に当分科会で討議報告されたものを編集したものでありますが、当分科会は31年3月に新しい起点として第1回分科会を開催致し、以後年2回、各会社工場の所在地に持ち廻り約5年間10回の分科会を開催致しました。委員は各社の専門技術者で委員以外の関係者も多数出席せられ、各社各工場の作業実績と併せ共通の研究課題の下で種々報告せられ、また各社各工場独自の研究データを惜みなく提出せられて検討されて参り、さらに各工場の見学を行い相互の意見を求めて参りました。

すなわち、本報告書はこれら各分科会の全く血のにじむような実地研究の成果の集大成されたものでありまして、過去、現在にわたつての技術研究実績の過程が記述せられ、将来の予測が出来る次第でありまして、現段階に立脚して考え得られる「モデルプラント」の研究考察に迄到達致しました。これは一重に、線材分科会における各社各工場の協力と委員各位の熱意によるものと深く感謝する次第であります。

終りに本報告の編集出版に当りまして各分科会の結果の調査検討を進め会社業務多忙中にも拘らず、熱心に尽力されました各社各工場の協力と各編集委員の努力に対しまして、特に深甚の謝意を表する次第であります。

昭和 36 年11月

鋼材部会線材分科会 主査

菖 蒲 正 俊